

From JPMA

見える産業を目指して

企業において、社会的な知名度を向上させるための取り組み(いわゆるブランド戦略)はとても重要です。私たち製薬企業にとって医療用医薬品に限って言えば、直接の顧客は医師、薬剤師などの医療関係者の皆さんであり、患者さんに医薬品を直接販売することはなく、その関係はあくまでも間接的です。しかしながら、最終的に服薬いただくのは患者さんであり、患者さんに医薬品や製薬産業を理解していただくことは大変重要なことであります。私たちは患者さん、つまり国民から見える企業・産業となることを目指した取り組みを継続し、よりいっそうの理解が得られるよう努力していかねばならないと考えています。



日本製薬工業協会
会長 庄田 隆

(JAPIC NEWS より)

日本製薬工業協会(製薬協)

Japan Pharmaceutical Manufacturers Association (JPMA)

製薬協は、病院、診療所などの医療機関で使われる医療用医薬品の研究・開発を通じて世界の人々の健康と福祉の向上に貢献することをめざす、研究開発志向型の製薬会社が加盟する団体で、1968年に設立されました。

製薬協は、「患者中心の医療の実現」に向けて、医薬品に対する理解を深めていただくための活動、ならびに製薬産業の健全な発展のための政策提言などをおこなっています。

製薬協は、国際製薬団体連合会(IFPMA)の加盟団体として世界の医療・医薬に関わる諸問題に対応し、各団体と連携を図りながら、グローバルな活動を展開しています。